

# にけーしよん

1/10 1月10日は『110番の日』

福浦小学校で「110番の日学習会」が行われ、福浦小学校、船越小学校の全児童と中浦小学校の3、4年生のほか、保護者や地域住民が参加しました。

「学習会」では、児童や地域住民で作った「絆」の文字を県警ヘリコプターが空撮したり、県警本部の警察犬による臭気選別訓練や白バイのスラローム走行訓練を見学したりしました。最後に、110番に関するクイズ大会も行われ、参加した子どもたちは警察業務について理解を深めました。



## 漂流物でつくる芸術



シーボーンアート愛南教室の講師を務める酒井やよみさん(写真中央)と大石博美さん(写真右)

シーボーンアート愛南教室では、本町の特産品であるヒオウギ貝や、海岸に流れ着いたガラスや貝がらなどの漂流物を利用してランプシェードやステンドグラス、海藻アートなどの作品を制作しています。

今年度は、愛媛県美術館と松山観光港で作品展を開催したほか、2月1日から愛媛大学医学部附属病院でも初めての作品展示を行っています。これまでに開催した作品展では、来場者からの評価も高く、彩り鮮やかな作品が多くの方の関心を集めました。

普段はゆらり内海で作品を展示していますので、ぜひ一度ご覧になってください。

## 本日! 海日和!! Vol.27 「ハリセンボンは針何本?」

2月9日は語呂合わせでフグの日だそうです。そこで今回はフグの仲間、ハリセンボンの紹介をします。

ハリセンボンも普段はスリムな体をしています。大きな胸ビレをパタパタと動かしながら泳ぐ姿は愛嬌いっぱい。動きものんびりとしていて、素手で捕まえることができるほどです。でも、捕まえるとさあ大変、見る間にムクムクと膨れ上がり、鋭い針が逆立ってきます。チクチクと手に刺さり、とても持つてはいられません。鋭い針で身を守るので、ほかのフグのように毒がありません(卵には毒があるそうです。)

ハリセンボンは名前のとおり針が1000本あるのでしょうか。以前、ざっと数えたところ、400本程度で1000本にはとても届きませんでした。お時間と興味のある方は、ぜひ数えてみてください。

(写真:ハリセンボン 撮影場所:鹿島愛南サンゴを守る会 西尾知照)



イガグリのように膨れたハリセンボン

# 愛南こみゆ

## 12/15 愛南町防災フォーラム

「忘却への抗い-『未来-』との連帯-」をテーマに、御荘文化センターで「愛南町防災フォーラム」が開催されました。

講師としてお招きした鍬ヶ崎小学校(岩手県)の古玉忠昭校長は、「3.11東日本大震災から2年目を迎え-宮古市での防災教育の変化-」と題した講演で、岩手県の復興教育の変化を紹介したほか、「“忘れる”という人間の深い性質への対策こそが安全と安心のいしずえとなる」と、震災の経験を語り継いでいく重要性について訴えました。また、被災地を視察した町教職員による成果報告会も行われ、4名の教職員がこれからの防災教育などについて発表しました。

フォーラム終了後は、古玉先生が先頭に立って復興支援の義援金を募り、フォーラム参加者の皆様から多くの義援金が寄せられました。

※集まった義援金111,000円は、宮古市に届けられました。多くのご支援ありがとうございました。



## 12/22 学んでみよう、昔の人の暮らし ~こども縄文体験学習~

平城貝塚に代表される愛南町の遺跡や遺物について、子どもたちに興味を持ってもらおうと平城交流センターで「こども縄文体験学習」が開催されました。

参加した子どもたちは、県埋蔵文化財センターの藤本清志調査員と沖野実調査員を講師に、石器の作り方や石斧・すり石など道具の使い方を学習したり、マダイや鶏肉を用いて、作ったばかりの石器の切れ味を実際に確かめたりしました。最後に、ドングリ粉やキビ粉を使って縄文クッキーの調理に挑戦し、約4,000年前の「縄文の食」を味わいました。



## 12/25、1/7 凧揚げを楽しもう

自作の凧で凧揚げを楽しんでもらおうと、清水一明さん(船越)が船越保育園で「凧作り教室」を開きました。教室には年中組、年長組の園児8名が参加し、清水さんに教わりながらビニールシートや竹ひごなどでオリジナルの凧を完成させました。同保育園では後日、船越漁港などで凧揚げを行い、山木蓮斗くん(6歳)は「初めて自分で作った凧が上手に飛んでうれしい」と楽しそうに話してくれました。



## 1/8 新春恒例 薬師如来奉納相撲大会

約150年続いているとされる伝統ある「薬師如来奉納相撲大会」が福浦公民館横の土俵で開催されました。福浦小学校全児童28名、同校卒業の御荘中学校の生徒12名、今春同校に入学予定の園児1名が参加した大会は、紅組から猪野修也くん(6年)、白組から長濱雄介くん(6年)の両横綱の土俵入りで幕を開けました。続いて、紅白対抗戦や3人抜き、地区対抗戦が行われ、子どもたちの熱い取組と100人を超す観客の声援で大会は大いに盛り上がりました。

